

テーマは 「安らぎ」 地震への備えについて考えます。

安らぎ通信 NO. 1

平成28年6月の安らぎ通信



揺れないプレートのずれ 海底の浅い部分でも

京大など観測

京都大学や東京大学、米テキサス大学などの国際チームは、プレートの境界が揺れを起こさずゆっくりずれる「スロースリップ」を海底下の浅い部分で観測したと発表しました。

規模の割に大きな津波を起こす津波地震の発生域を推定するのに役立つとみられます。

スロースリップは、プレート境界が数日から数年にわたってゆっくりずれ動く現象。直接には自信を起こしませんが、地震の原因となるプレート境界のひずみ蓄積を知る手掛かりになります。

(2016年5月9日 日本経済新聞記事から抜粋)



学校耐震「十分か不安」 熊本で余震繰り返し被害

補強必要？ 他地域も困惑

大阪府内の公立小中学校の校舎や体育館など約8000棟の99%は耐震化が完了。熊本地震で耐震化後の施設に被害が出たことで、追加対応が必要になる可能性も。

文部科学省によると、学校施設に求める耐震基準は「震度6強以上の地震で倒壊・崩壊の危険性が低い」水準としていますが、大地震の連続発生は想定していませんでした。

兵庫県の耐震化率は97.5%。京都府は98.8%。

(2016年5月13日 日本経済新聞記事から抜粋)



あなたに価値あるホームページを yamachuwood.com

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781

テーマは 「安らぎ」 地震への備えについて考えます。

安らぎ通信 NO. 2



耐震基準満たしても全壊 強い揺れ複数回

政府、断層帯調査へ

日本には2000以上の活断層があるとされています。

震度7が2度起きた熊本県益城町を調査したところ、耐震基準が厳しくなった2000年以降に建ったとみられる木造住宅51棟が全壊。建物の土台と柱を固定する接合部が壊れていた事例も。

(2016年5月14日 日本経済新聞記事から抜粋)



四国沖など「ひずみ」強く 南海トラフ、海保が解析

巨大地震発生が危惧される「南海トラフ」沿いで、プレート（岩盤）のひずみが四国や静岡県、愛知県の沖合などに蓄積されているとする分析結果を海上保安庁がまとめました。

ひずみの分布が明らかになるのは初めてで、地震や津波の被害予測に有用なデータとなる可能性があります。

(2016年5月24日 日本経済新聞記事から抜粋)



噴火に「保険」 損保ジャパン、まず富士山

観光業への打撃軽減

損害保険ジャパン日本興亜は、火山が噴火した際に一定額を支払う金融派生商品を世界で初めて販売します。温泉地などの観光業者が購入すれば、風評被害での打撃を軽減する「保険」として活用できます。火山の近くに工場を置く企業などに積極的な投資を促す効果も見込めます。

(2016年5月27日 日本経済新聞記事から抜粋)



あなたに価値あるホームページを yamachuwood.com

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781